毎日新聞
平成 24 年 11 月 6 日　掲載

新聞で学ぼう

長野県・東京都市大塩尻高校
荻原 義正教諭

視野を広げ多様性を知る

長野県塩尻市にある東京都市大塩尻高校（赤羽利文校長、生徒数800人）で社会の各教科を担当する荻原義正教諭(28)の授業は、新聞記事のコピーを配ることから始まる。

ある日は「子どもの貧困」を題材にした毎日新聞の社説を取り上げた。日本の貧困率が高いことや貧困の連鎖、政策上の問題点を指摘する記事を読ませ、生徒に「どんな内容だった？」「豊かな家庭ほど高学歴になると言われるのはなぜだろう」と問いかけた。

荻原教諭は同校に赴任した08年から、50分間の授業のうち5～10分間をこの時間に充てている。現在は計10学級で週2回ずつ。社説や毎日新聞の「なるほドリ」を中心に、生徒が関心を持ちそうな最新のテーマを選ぶ。

「東京駅改装」では戦前、首相襲撃事件があったことや空襲被害について。「スポーツ事故」はダンス、武道必修化の流れを説明。「幹細胞」「ノーベル賞」もテーマにした。

特定の授業の時だけでなく日常的に新聞を使うのは、ネット世代の生徒たちへの期待と懸念があるからだ。

「人のつながりや交流が以前は考えられなかったほど広がり、周囲への関心、知りたいという意欲も旺盛。ただ興味があること、好きな情報しか入らない恐れもある」。新聞に目を通す習慣を身につけることで「世の中で起きていることに広く関心を持ち、自分のテリトリー以外にもさまざまな出来事、考え方があることを知ってほしい」と願っている。

【古川修司】

新聞記事を使った授業をする荻原教諭（左）＝長野県塩尻市広丘高出の東京都市大塩尻高校で

●この記事・写真等は毎日新聞社の許諾を得て転載しています。
無断で複製等、著作権を侵害する一切の行為を禁止します。

東京都市大学グループ
学校法人 五島育英会